

# みなみふらの ボランティアつうしん 号外(2016年10月発行)

8月31日に空知川の堤防が決壊し、落合地区と幾寅地区に甚大な被害をもたらした災害から、早いもので1か月が過ぎました。  
今月号では、当社会福祉協議会も参加している災害ボランティアセンターの活動状況をご報告させていただきます。

## 災害ボランティアセンターの概要

南富良野町災害ボランティアセンターは9月1日、発起人の内田誠治さん・全国社会福祉協議会・北海道社会福祉協議会・災害ボランティア活動支援プロジェクト・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク・NPO法人どんころ野外学校・南富良野町社会福祉協議会などによって立ち上げられました。

当町社会福祉協議会事務局長がセンター長となり、災害ボランティアセンターの活動が始まりました。

未だかつて経験したことのない災害を目の当たりにして、どのように活動していけば良いのか、何をすべきなのか、必要な道具がなく人手も足りない環境で始まったこの活動は全てが手探りの状態でした。

今現在も全道各地の社会福祉協議会から、事務局の応援に来ていただいて、道内外から来てくれたボランティアの方々の支援を受けながら、南富良野町の復興に向けて活動している最中であり、

## ボランティア活動の流れ

8:00～受付開始

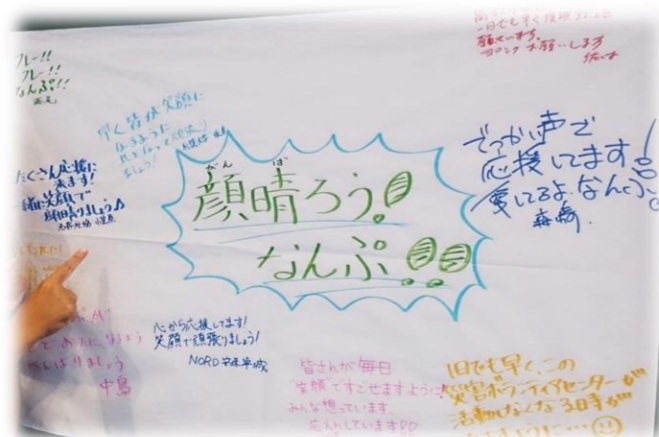
8:30～オリエンテーション

9:00～マッチング・送り出し

11:30～昼休憩

13:00～作業再開

16:00 作業終了



## ボランティア活動の様子



写真は室外の物ですが、初期の段階では家の中の泥出しがメインでした。  
災害直後は水分を含んだ泥がとて重く、作業が難航していました。この頃は200名を超えるボランティアさんが道内外から手伝いに来ていただきました。

個人宅だけでなく、会社の敷地内もくまなく泥出しです。たくさんのボランティアさんが来て下さり、重機が入れない狭い所もきれいに掃除していただきました。



家の中の泥出しが終わると、次の作業です。はがされた床下の泥を出し、乾燥させて消毒です。なかなかこれが大変なんです。  
床上浸水していなくても、床下の断熱材が水を吸ってしまっている家がたくさんあり、スタッフやボランティアさんで一軒一軒チェックし、復興していきました!

泥水に浸かってしまった大切な写真です。ボランティアさんにキレイにいただき、乾燥させている最中です。  
泥出しの作業が終盤に近づき、このような繊細な作業が増えてきています。



## 災害ボランティアセンター長より

早いもので、災害が起きて1か月が経ちました。  
これまでに、道内外から延4,800人を超えるボランティアの方々が南富良野に来ていただきました。当センターでは、これからも被災された方々に寄り添い活動を続けていきたいと思っております。どうぞお気軽に声をかけて下さい。